

2007.12.22

“喜びと悲しみ”の音楽 生と死をテーマにした曲を聴く

プログラム

今年最後のCDコンサートになりました。今回はいつも隣り合わせにいる“生と死”をテーマにした名曲の数々をお聴きいただきます。人間の迫り来る死と死後の浄化を描いたリヒャルト・シュトラウスの名作。死の恐怖から逃げようと葛藤する乙女の生命を力強く描いたシューベルトの傑作。文学作品からのプロコフィエフとグリーグの名曲。夜の墓場と骸骨たちの踊りなどアンリ・カザリの奇怪な詩から生まれたサン＝サーンスの交響詩。そして最後は、歓喜の合唱、ベートーヴェンの第九で締めくくりたいと思います。特製ステレオでお楽しみ下さい。

リヒャルト・シュトラウス (1864~1936) :
交響詩“死と変容” Op.24

カール・ベーム指揮ロンドン交響楽団
(1977.8.10 ザルツブルク祝祭大劇場Live)

フランツ・シューベルト (1797~1828) :
弦楽四重奏曲第14番ニ短調“死と乙女”~

第1楽章から、第2楽章、第4楽章から
アルバン・ベルク弦楽四重奏団 (1997.5.22 王子ホールLive)

セルゲイ・プロコフィエフ (1891~1953) :
舞踊音楽“ロミオとジュリエット”~タイボルトの死

セルジュ・チェリビダッケ指揮シュトゥットガルト放送交響楽団
(1981.2.13 ベートーヴェンザールLive)

*** 休憩 ***

エドゥアルド・グリーグ (1843~1907) :
劇音楽“パール・ギュント”~オーゼの死

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ウィーン・フィルハーモニー楽団
(1961年録音/DECCA盤)

カミーユ・サン＝サーンス (1835~1921) :
交響詩“死の舞踏”

ジャン・フルネ指揮東京都交響楽団
(1987.9.24 国立音楽大学講堂Live)

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン (1770~1827) :
交響曲第9番ニ短調Op.125“合唱”~第4楽章

ディーン・ディクソン指揮フランクフルト放送交響楽団
ヤノヴィッツ (ソプラノ) /ギレス (アルト) /ホルヴェーグ (テノール) /ゾーティン (バス)
フランクフルト・シング・アカデミー合唱団
(1974.5.10 ヘッセン放送協会大ホールLive)